

登録コード	E4650900	開講年度	2026				
授業科目	美術科指導法基礎				担当教員	大島 賢一	
英文授業名	Fundamentals of Teaching Method in Art Education				副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生	2年生
講義室	教育N104講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				美術教育について、その意義や目的について正しく理解する。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				美術教育を行う上で、基本となる知識、技能を習得する。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・ 講義により、美術教育の文化的、社会的な背景を理解する。 ・ 講義や演習、ワークショップなどを通して学習指導要領に示される美術科の目的、内容、指導法、評価について実践的に学び、理解を深める。 ・ 様々な資料や授業実践を示しながら、美術科教育の実践について知る。加えて、美術館との連携やICT活用などの現代的な諸課題についても概説を行う。 ・ 講義及び演習を通じて、美術科の授業計画及び学習指導案の作成を行うとともに、模擬授業の実施と、その検討を行う。						
(5)授業計画	第1回：授業ガイダンス／美術科とはどのような教科か-その目的と内容-学習指導要領を読む 第2回：美術教育の背景 特に美術、文化、社会システムとの関わりにおいて 第3回：美術教育の背景 特に生徒観、発達理解、人間形成と関わって 第4回：現代の美術教育が目指す人間像 美術科の目的と評価に関わって 第5回：美術科の学習内容 A表現 その目的と活動の概要 第6回：美術科の学習内容 A表現 授業構想の際の留意点と具体的な指導法について 第7回：美術科の学習内容 B鑑賞 その目的と活動の概要 第8回：美術科の学習内容 B鑑賞 授業構想の際の留意点と具体的な指導法について 第9回：今日の美術教育の諸相 学校と美術館の連携／ICT機器活用／プロジェクト・ワークショップ等 第10回：授業設計の方法と学習指導案の作成 第11回：模擬授業とその振り返り A 表現 絵や彫刻など 第12回：模擬授業とその振り返り A 表現 デザインや工芸など 第13回：模擬授業とその振り返り A 表現 発想や構想に特に注目する授業実践 第14回：模擬授業とその振り返り B 鑑賞 最終回に授業アンケートを実施。						
(6)成績評価の方法	・ 各回の授業の理解度を測るために、レポートなどの小課題を複数回課す。40% ・ 授業後半に行う模擬授業において、作成された指導案、授業実践、その後の省察レポートによって評価を行う。指導案及び授業実践40%、省察レポート20%。 ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	講義を踏まえてのレポート等小課題については、授業の内容について正しく理解していることが認められれば「水準にある」。講義内容を踏まえた上で、発展的な問題への認識が見られれば「やや上にある」。そうした問題に対して、自分なりの解決を示そうとする様子が見られれば「かなり上にある」。そこで示される解決が、合理的なもので、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。指導案及び模擬授業実践については、講義の内容を理解した上で、目標・評価基準・指導法などが美術科にふさわしい授業提案が行われたら「水準にある」。提案された授業の着想に独自性が見られれば「やや上にある」。実施された授業の内容が実際の教育現場において十分な実現可能性を有していれば「かなり上にある」。授業の内容が教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。省察レポートについては、自身の実施した授業の客観的省察が行われていれば「水準にある」。自身の授業の問題点を的確に捕らえられていれば「やや上にある」。その問題点に対するふさわしい改善方法についての提示があれば「かなり上にある」。そこで改めて提示される授業構想が教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	・ 授業中に推薦図書や関連資料について提示するので、積極的に読むことを求める。 ・ 授業中に課されるレポート等の課題については、各自十分なりサーチを行い完成させるように務める。 ・ 講義の終盤に行われる模擬授業については、実施直前に準備するのではなく、各回の講義を踏まえながら、計画的に準備を行っていくことが求められる。						
(9)履修上の注意	模擬授業の実施にあたり、その用具及び材料等は、原則的に各受講者の責任によって用意する。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メール予約で随時。N213 oshima@shinshu-u.ac.jp 026-238-4141						
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』						
【参考文献】	授業において都度指示する。						